

## 平成18年度東北海区サバ長期漁況予報

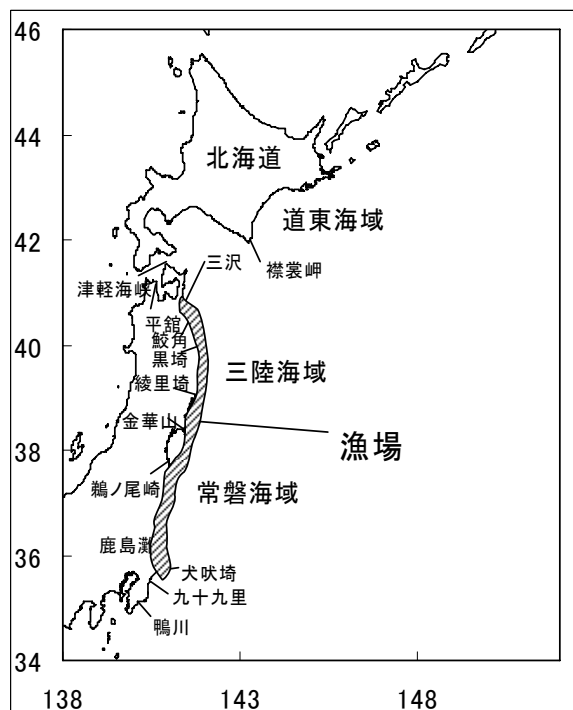
－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合センター  
東北区水産研究所がとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(2006年10月～12月)

マサバ・ゴマサバとも  
0歳魚及び1歳魚は前年を下回る。

漁獲の主体となる2歳魚は前年を  
大きく上回る。

全体では前年を下回る。



### 問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：青木、田中、佐藤

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話：03-3502-8111(内線7375、7376)、直通電話：03-3501-5098、ファックス：03-3592-0759

電子メール：yuusuke\_satoh@nm.maff.go.jp

独立行政法人水産総合研究センター 東北区水産研究所 業務推進部

〒985-0001 宮城県塩釜市新浜町3-27-5

電話：022-365-1191、ファックス：022-367-1250、電子メール：www-tnf@ml.affrc.go.jp

なお、本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>)、水産総合研究センターにおける我が国水域資源調査推進委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)、及び東北区水産研究所のホームページ(<http://www.myg.affrc.go.jp/>)に掲載されます。

## 参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場	水産庁
北海道立函館水産試験場	資源管理部 沿岸沖合課
青森県水産総合研究センター	増殖推進部 漁場資源課
岩手県水産技術センター	独立行政法人 水産総合研究センター
宮城県水産研究開発センター	北海道区水産研究所
福島県水産試験場	中央水産研究所
茨城県水産試験場	東北区水産研究所
千葉県水産総合研究センター	
社団法人 漁業情報サービスセンター	

## 平成18年度東北海区サバ漁況予報

今後の見通し(2006年10月～12月)

対象海域:三陸～常磐～犬吠海域

対象漁業:まき網

対象魚群:マサバ、ゴマサバ 0歳魚(2006(平成18)年級群)、1歳魚(2005(平成17)年級群)、2歳(2004(平成16)年級群)、3歳(2003(平成15)年級群)以上。魚体の大きさは尾叉長で表示。

(1)来遊量:マサバ・ゴマサバとも0歳魚及び1歳魚は前年を下回る。漁獲の主体となる2歳魚は前年を大きく上回る。3歳魚以上の漁獲は少ない。全体では前年を下回る。

(2)漁期・漁場:主に沿岸域に滞泳するマサバ、ゴマサバ2歳魚の集群によって三陸南部～常磐海域、漁期後半ではさらに犬吠海域まで漁場が形成される。沖合からの0歳及び1歳魚の来遊は少ない。

(3)魚体:32～33cm前後の2歳魚主体で、漁期後半には29cm以下の0及び1歳魚が混じる。

### 漁況の経過(2006(平成17)年7月～9月)および今後の見通しについての説明

#### 1. 漁況の経過

##### (1)まき網漁業

7月は、上中旬は主に常磐南部以南で漁場形成された。下旬には常磐北部～犬吠埼沖でマイワシに混じり漁獲され、三陸北部でもスルメイカに混獲された。

8月上旬には、三陸北部でスルメイカ混じりやさば類主体で漁獲された。中旬には三陸北部とともに一時常磐北部でもマイワシに混じり漁獲された。下旬には三陸北部漁場は継続し、三陸南部でも漁獲された。また今年も道東海域で漁場形成された。

9月上旬には三陸南部海域が漁場の中心となった。道東海域の漁場は、上旬までで消滅したが、これはさば類が南下したためとみられる。中旬には三陸北部及び南部に分かれて漁場が形成された。下旬には三陸北部漁場が中心となったが、金華山周辺など三陸南部でも漁場は継続した。

漁獲物は、7月の常磐海域はゴマサバ主体、下旬の三陸北部はマサバ主体であった。8月になると三陸北部ではゴマサバの割合が主体となったが、三陸南部～常磐ではマサバ主体であった。道東沖ではゴマサバの割合が高かった。9月中旬には道東、三陸北部、三陸南部ともマサバ主体となった。今期全体としてはマサバの割合が高かった。体長23～40 cmの範囲で32～33 cmにモードがあり、2歳魚主体であった。

東北海域における7～9月の漁獲量は、8.2万トン(暫定値)であり、前年同期実績(4.6万トン)を大きく上回った。また、道東海域でも昨年に続き漁獲され、漁獲量は1.9千トンであった。

##### (2)その他の漁業

岩手県、宮城県の設定網にはさば類の入網が見られ、7～9月の漁獲量はそれぞれ1.7万トン、2.2万トンであり、両県とも前年同期実績(1.3万トン、1.0万トン)を上回った。漁獲物のマサバ・ゴマサバの割合は海域により異なる。

り、岩手県では7月はマサバ主体でその後9月上旬までゴマサバ主体となり、9月下旬以降再びマサバ主体となった。これに対し宮城県では期を通じてマサバ主体であった。マサバの体長は15～47 cmの範囲で35 cmにモードがみられ、ゴマサバの体長は18～42cmの範囲で31cmにモードがみられた。

道東海域のサンマ流し網漁業、および棒受網漁業でのさば類0歳魚の混獲はわずかであった。加入豊度の高い年級群では、0歳時にサンマ漁業への混獲が多いことが知られていることから、2006年級群の加入豊度は高いと判断される。

## 2. 調査船調査結果

(1) 北海道立釧路水産試験場（北辰丸）が、道東～三陸沖において1994年以降毎年8～9月に行っている流し網漁獲調査の結果、本年は、さば類2歳魚の漁獲は1994年以降では比較的多く、1歳魚は前年を大きく下回り、0歳魚は前年を上回った。本調査結果は各年の加入豊度の指標となることが知られており、本年の結果から2006年級群の加入豊度は、2005年級群をやや上回るが、2002～2004年級群を下回ると判断される。

(2) 東北水研・中央水研（用船北鳳丸；北海道実習船管理局所属）は、道東～三陸～常磐沿岸から東経165度までの海域において、9月9日～10月4日に中層トロール漁獲調査を行った。59回の試験（夜間30分間曳網）で、体長15～33 cmのさば類が46尾漁獲された。

推定0歳魚は、主に近海の親潮第1分枝、および東経158～165度の表面水温15℃以下の親潮域で漁獲された。0歳魚は、春季の北上期には、黒潮統流によって東方へ運ばれて本邦近海から東経165～170度付近まで分布することが、中央水研、東北水研などの調査船調査結果から知られている。秋季の南下期においても東経165度まで分布していることが本調査によって確認された。漁獲物の体長範囲は15-21cmであり、例年この時期の0歳魚の体長（21～22 cm前後）より小さいものが多かった。

推定1歳魚以上の個体は襟裳岬南及び黒崎沖の津軽暖流域の縁辺でわずかに漁獲された。

本調査は、1987～2002年の8～10月に、主に東経148度以西の北海道～東北海域において流し網漁獲調査として継続して行われてきた。2001年以降は調査効率の向上を目的として中層トロール漁獲試験により実施している。

これまでの調査結果から、0歳魚は、加入豊度の高い年には広範囲に高い密度で分布するために調査海域の広い範囲で漁獲され、その出現率（漁獲のあった調査点/全調査点）が高くなる傾向が知られている。本年の中層トロール調査における0歳魚（2006年級群）の出現率は、調査海域全体でさば類9.3%、マサバ6.8%、東経148度以西の本邦近海では同6.9%、3.4%と非常に低く、2001年以降最低値であった（2001年級群：さば類28.1%、マサバ12.5%、2002年級群：同60.0%、56.7%、2003年級群：同29.0%、26.7%、2004年級群：同69.2%、56.4%、2005年級群：同40.7%、40.7%）。

また、本邦近海の漁獲のあった点におけるCPUE（漁獲尾数/網）の平均値もさば類4.6尾/網、マサバ5.4尾/網であり2001以降最低値を示した（2001年級群：さば類82.0、マサバ7.9尾/網、2002年級群：同76.6、49.7尾/網、2003年級群：同40.2、40.9尾/網、2004年級群：同54.5、34.8尾/網、2005年級群：同42.8、37.1尾/網）。

以上の調査結果から、2006年級群の加入豊度は、2001年以降最低水準と判断される。

## 3. 今後の見通しの説明

### (1) 来遊量

マサバ3歳（2003年級群）以上は、残存資源量は少ない。また、漁期が進むとともに産卵親魚として本予測海域から産卵海域へと南下していく傾向にある。ゴマサバ3歳魚も残存資源量は少ない。

マサバ2歳魚（2004年級群）は、中央水研による資源評価やこれまでの漁況経過から、近年では比較的加入豊度の高い年級群と判断されており、その来遊量は、少なかった前年を大幅に上回る。しかし、近年の卓越年級群であった1992（平成4）年級群の2歳時の10～12月における漁獲量は3.4万トン、1996（平成8）年級群では同4.7万トンであったことから判断して、今後これを大きく上回る来遊量があるとは考えられない。7月以降の漁況経過や調査船調査結果から、今夏秋季の近海における2歳魚の分布域は、主に道東沿岸から北海道周辺の津軽暖流域、および三陸以南の沿岸域に限られており、道東海域では、まき網による漁獲があったものの分布量は多くなかったと考えられる。ゴマサバ2歳魚もマサバと同様の分布が見られ、加入豊度は比較的高く、前年を上回る。

マサバ1歳魚（2005年級群）はまき網漁業などでの漁獲は少なく、資源水準は低いと考えられる。ゴマサバ1歳魚も同様である。

マサバ0歳魚（2006年級群）は、東北水研・中央水研の調査船調査結果から、その加入豊度は2001年以降最低水準と判断される。釧路水試の調査結果では1地点のみの漁獲ではあるが2005年級をやや上回る結果となったが近年では低い水準であった。いずれにしろ2006年級群の分布は狭く、加入豊度は高いとはいえない。ゴマサバ0歳魚も、マサバと同様の分布が見られており、加入豊度は低いと判断される。

以上より漁獲の主対象となるマサバ2歳魚の来遊量は前年を大幅に上回るものの、1992、1996年級群の2歳時における漁獲の推移から判断して来遊量が前年を上回るとは考えられない。さらに1歳魚の資源水準及び0歳魚の加入水準が低いことから、さば類全体としての来遊量は前年を下回ると考えられる。

## (2)漁期・漁場

漁獲の主体となる2歳魚は、前述の通り、マサバ、ゴマサバとも、主に三陸以南の沿岸域に分布しており、今後道東海域や東方沖合から大量に来遊することはないと考えられる。三陸以南沿岸に滞泳する魚群の集群によって漁場が形成される。今後水温の低下に従い、10月中には常磐海域まで漁場は広がり、11月以降は常磐～犬吠埼沖が主漁場となる。

## (3)魚体

年齢と魚体の大きさは、商業漁獲物や調査船漁獲物の体長測定結果と鱗の輪紋による年齢査定結果による。7月から漁獲されている32～33 cm前後のマサバ、ゴマサバ2歳魚が、今漁期の主体となる。これに24～25 cm程度の1歳魚が混じる。漁期が進むにつれて沖合の親潮域に分布する24 cm未満のマサバ、ゴマサバ0歳魚が漁場に来遊するが、前述の通り多くなく、2歳魚に混じる程度と考えられる。

## (資料)

表1. まき網による道県別さば類(マサバ, ゴマサバ)水揚げ量(t). カッコ内は定置網などその他による漁獲.

2006年	千葉	茨城	福島	宮城	岩手	青森	北海道	計
7月	4,107	3,571	390 (23)	2,133 (11,383)	0 (4,875)	259 (0.3)	0	10,460 (16,282)
8月	358	341	7 (7)	1,075 (6,575)	146 (6,473)	13,047 (0.0)	1,221	14,973 (13,055)
9月	16,572	977	296 (19)	16,970 (5,800)	259 (5,370)	18,732 (0.4)	457	54,263 (11,190)
計	21,037	4,890	693 (50)	20,177 (23,757)	404 (16,719)	32,038 (0.7)	1,678	79,696 (40,527)

各道県水産試験研究機関資料・その他

(むつ湾平館定置↑)(道東海域) ※9月は暫定値

表2. さば類(マサバ, ゴマサバ)の東北海区におけるまき網による漁獲量(トン) ※北海道は含まない

月\年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
1	2,447	38,086	1,619	6,306	9,076	42,283	521	2,983	821	10,882	7	593	15,824	30,119
2	594	172	0	3,520	24,264	3,700	1,839	1,383	15,084	4,959	766	0	5,789	10,020
3	379	642	363	229	31,338	64	3,240	1,738	18,629	0	127	4,762	26,097	3,208
4	8,070	2,200	0	15,396	25,071	13,096	5,244	20,049	7,765	0	7,809	1,125	27,847	8,080
5	4,676	8,830	838	13,685	42,161	23,166	5,532	5,786	20,083	0	3,649	1,247	14,525	16,822
6	20,010	2,211	1,749	11,164	28,933	14,905	2,548	1,765	2,098	23	2,136	2,008	19,195	15,888
7	3,901	15	2,083	8,233	3,881	8,769	155	4,356	3,397	271	6,291	2,558	9,478	10,803
8	18,197	5,218	16,007	2,253	10,362	19,008	8,441	2,732	10,780	745	1,915	5,766	7,976	14,101
9	66,901	28,869	10,923	7,349	23,162	13,969	8,261	8,443	12,823	1,241	8,780	13,549	29,011	55,084
10	79,575	12,791	10,495	23,979	45,916	19,312	8,859	15,385	13,404	3,399	21,007	9,732	45,684	
11	49,657	8,391	4,386	8,000	75,828	18,866	6,936	10,331	18,495	5,840	1,126	8,383	30,158	
12	73,559	12,753	17,729	4,979	37,763	8,585	8,849	4,749	17,084	21,773	12,020	18,362	30,861	
7-9月計	88,999	34,102	29,013	17,835	37,405	41,746	16,857	15,531	27,000	2,257	16,986	21,873	46,465	79,988
年計	327,966	120,178	66,192	105,093	357,755	185,723	60,425	79,700	140,463	49,133	65,633	68,085	262,445	164,125

※北部太平洋海区まき網漁業組合集計値(一部修正)、および各県水産試験研究機関・JAFIC資料

※2006年9月は暫定値

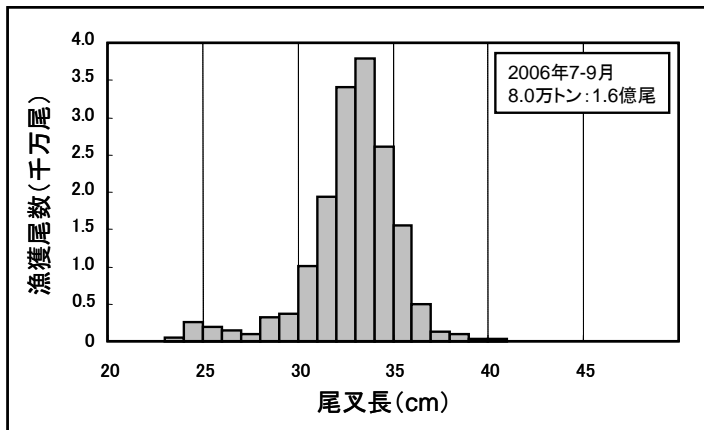


図1. 東北海域のまき網で2006年7～9月に漁獲されたさば類(マサバ、ゴマサバ)の体長組成

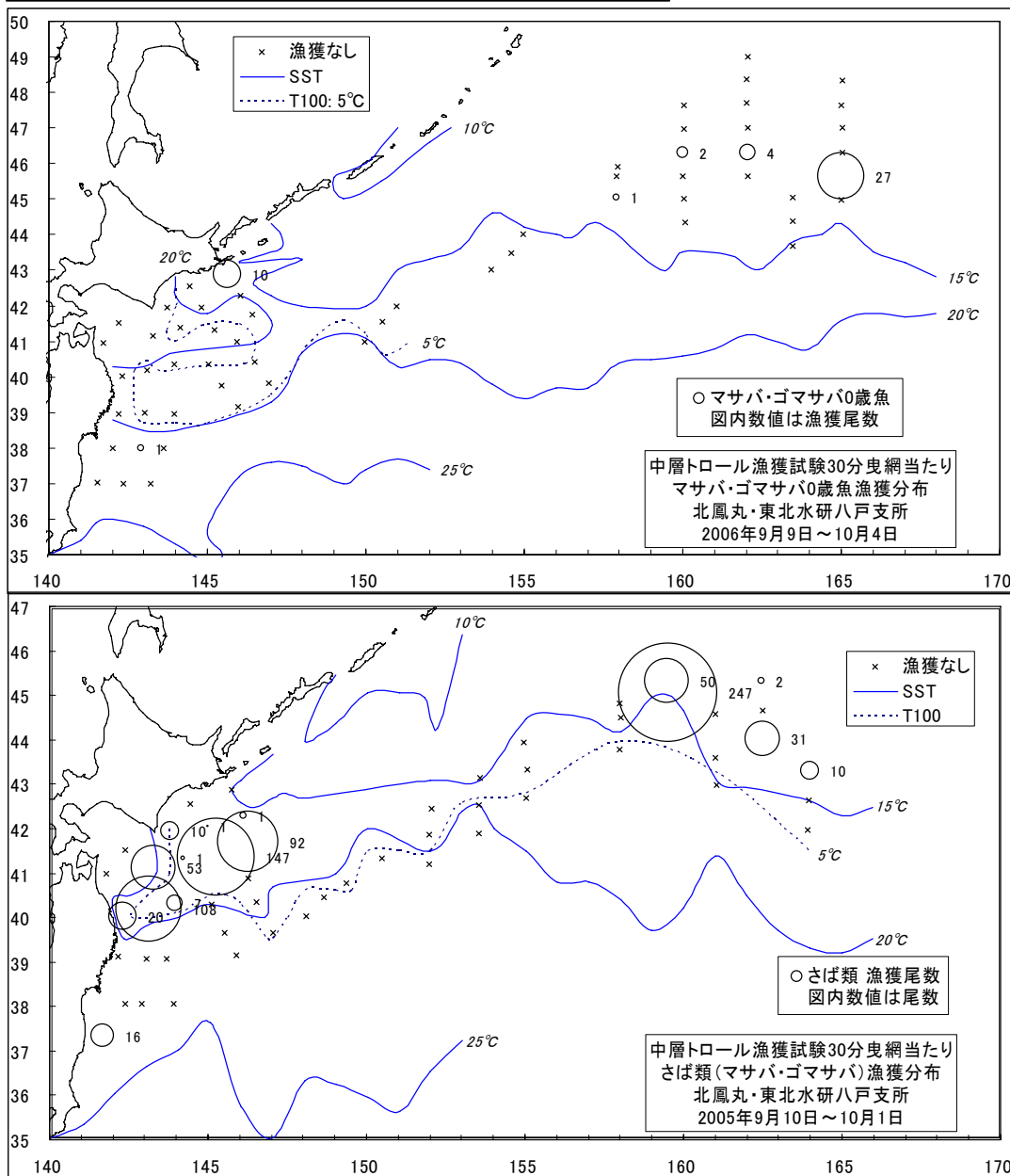


図2. 2006年9～10月の東北水研(北鳳丸)の中層トロール漁獲調査におけるさば類(マサバ、ゴマサバ)0歳魚, 1歳魚以上の漁獲分布. 使用したトロール網は網口の大きさが高さ約30 m×幅約30 mであり、夜間(一部昼間)に表層を約5 ktで30分間曳網した. 等水温線は本調査の観測結果とJAFICの漁海況情報による.

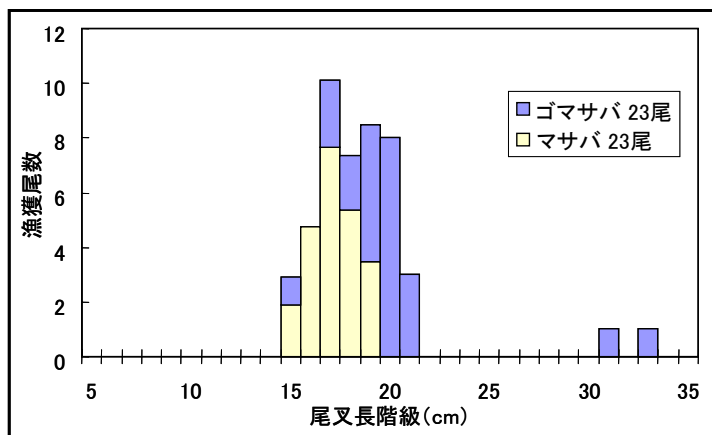


図3. 2006年9～10月の東北水研(北鳳丸)の中層トロール漁獲調査(北西太平洋, 図2)で漁獲されたさば類の尾叉長組成